

# 市長は「不適當」との答申を真摯に受け止めるべき

## 高田区地域協議会が「(仮称)厚生産業会館基本構想案」は、不適當とします」との答申を村山市長に提出しました。

高田区地域協議会(西山要耕会長)は先月30日、「(仮称)厚生産業会館基本構想案」は、不適當とします」との答申を村山市長に提出しました。

「不適當」との答申を出した理由として、委員から出された、「財政状況が厳しく高齢化が進展する中、多額の税金を投入して本施設を建設することは、建設費や将来の維持管理経費の負担増につながる」「本施設を建設することについて、全市のコンセンサスが得られていない」などの意見が列挙されています。

新聞報道によると、これに対して村山市長は、「答申を言えず、受け取れる状態にない」「上越タイムス」も、「不適當とする理由が『会館自体に列挙でよくわからない』(新潟日報)など

とのべて、「現段階では基本構想案を変更する考えはない」(新潟日報)とコメントしているようです。

しかし、こんなコメントを出しているのでしょうか。私は10月の高田区地域協議会を傍聴させてもらいましたし、それ以前の会議の議事録も読ませてもらいましたが、とても真剣で良い議論が行われていました。

諮問は会館を高田公園内プール跡地に、こんな施設をつくりたいと具体的なものでした。それらについて、市税を使う時の優先度、建物の位置、構造など様々な角度から議論が交わされました。「議論を欠く」と言ったらあまりにも失礼です。そして、結論としては「不適當になった」。その理由は列挙という形になったとしても良いじゃないですか。いろいろな不適當理由があっても自然だと思えます。



【センブリ】リンドウ科。漢字で「千振」と書きます。名前の由来は「千回振出してもまだ痛い」ということからきています。小さな頃、腹が痛いというと、ばか苦いものを飲まれた記憶がありませんか。おそらく、このセンブリです。吉川区代石にて撮影。

答申については、「高田区地域協議会は勇気ある判断をした」(安塚区住民)など高い評価がありました。その一方で、新聞報道で市長コメントを読んだ人からは、「こんな態度で地域協議会答申に対応するなんて許せない」「市民がど真ん中どころか官僚政治そのものだ」などの声が寄せられています。その通りです。もし、今回の答申を無視してことをすすめたら、大問題となります。全国から先進的な制度として評価されている上越市の地域自治区、地域協議会の制度の危機にもつながりかねません。答申は真摯に受け止めて尊重すべきです。



### 柿崎一揆テーマの小説、玄間さんが来年出版

1783年(天明3年)の11月下旬、柿崎区の下黒川地域を主な舞台に一揆が起きました。「柿崎騒動」または「柿崎一揆」と呼ばれた事件です。この年は浅間山が大爆発し、飢饉が庶民を苦しめました。

一揆をおこした人たちは柿崎の浦浜海岸に集結し、夜、角取、下小野、上小野などの素封家(お金持ち)や造り酒屋などを襲いました。

この事件を題材にした小説が来年出ます。書き手は出雲崎出身のフリーライター、玄間太郎さん。玄間さんは先日、3回目の現地調査に入られ、浦浜海岸や角取、上小野などの現地を歩かれました。今回の調査には、柿崎区出身の足立正恒さんの紹介もあり、私が同行しました。どんな小説になるのか楽しみです。

なお、柿崎一揆は水上勉の「蓑笠の人」でも書かれたことがあります。(写真は浦浜海岸)

### 瞽女研究の市川信夫さんが講演

先月30日、長野市議会との交流会があり、その際、瞽女研究者である市川信夫さんの講演がありました。

市川さんは瞽女さんの暮らし、映画「ふみ子の海」のことをエピソードを交えながら紹介してくださいました。また、講演の途中、映画「瞽女さんの唄が聞こえる」を上映、高田の雁木や町屋などとともに昭和40年代の農村部の風景も出てきました。とてもいい講演会でした。(写真は「瞽女さんの唄が聞こえる」の1場面。浦川原区杉坪のお寺の階段か)



一月の二週目の土曜日に源中学校時代の同級会を開くということで、地元の同級生とともにその準備をしています。私の役目は、当日、会場で配布するパンフレット作りです。いつもの癖で作業が遅く開催日間際になってバタバタしてしまいました。というのも、困ったことに、みんな歌おうと思っていた校歌が見つからなかったのです。小学校の校歌はすぐに見つかったのですが、中学校の方はどこへしまいいんだのか出てきませんでした。

そこで学校のすぐそばに住んでいる先輩のYさんに電話してみました。「あると思うよ」との返事でしたので、すぐにYさんのところへと車を走らせました。

最初、なかなか見つからなかったようですが、源中学校の閉校記念誌が出てきました。冊子を開いた途端、うれしくなりました。校歌はもちろんのこと、学校の校舎、体育館、忠霊塔などの写真も掲載されていたからです。これで、同級生と一緒に校歌を歌うことができます。校舎などの写真を見た同級生たちは学校での授業のこと、部活のこと、新潟地震のことなどいろいろな思い出を語ってくれるはず。記念誌のなかで読んでおきたいと思ったページをYさんからコピーしてもらいました。

家に戻って、コピーしてもらった写真などをゆっくり見ているうちに、いろんなことを発見しました。例えば、校歌は一番から三番まであるのですが、額に入れた校歌と音符付きの校歌では、二番と三番の順序が違っているのです。これは同級会でどちらが正しいのか確かめたいと思います。また、忠霊塔の写真にはお世話になった中村三代志先生のほかに、わが家と同じ立場に住んでおられた長谷川正則先生の姿も写っていました。長谷川先生がなぜここにおられたのかも調べたいなりました。

私が源中学校に入学したのは昭和三十七年四月です。校長は中学二年までが熊倉平三郎先生、中学校三年の時は山田良雄先生でした。このうち、熊倉先生は私が小学校の時からずっと校長でした。小中学校とも同じ校長というのはめずらしいと思います。記念誌にはこの二人の先生も寄稿されていました。私はこの二人については中学生時代から対照的なイメージで記憶していました。熊倉先生は「近寄りたく、硬い先生」、山田先生は「良家のお父さん」といった感じ。寄稿された文を読んで私のイメージに狂いはないものの、二人の先生のお仕事ぶりについてはほとんど知らないできたということが分かりました。

「社会教育を案じつつ源中学校2ヶ年の教育を担って」と題した熊倉先生の文には、生徒を「お預かりした大切な国の宝」ととらえ、社会に出ても「絶えず自己の足下を見つめて反省し、思いやりを持って四圍(しい)の社会人に接する」ことができるよう努力したという文言がありました。また、山田先生の「さりゆく記録」という文には、五〇〇メートルも離れた崖から湧出した清水を学校までひいたこと、体育館のステージを組み立て式に改造し、体育館を広く使えるようにしたことなどが書かれています。おふたりとも生徒に限りない愛情を注がれていたことを改めて知り、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

さて、完成した同級会のパンフレットは八ページにもなりました。掲載された記録を読むと、テニスに夢中になったこと、先生方が熱心に補習授業の取組をされたことなどを思い出します。参加する同級生みなさんも私以上にいろんなことを思い出して、語ってくれることでしょう。記録がどんな力を発揮してくれるか、楽しみです。

# 第8回大島音楽祭は楽しさいっぱい

大島区のふれあい館で行われた大島音楽祭に参加してきました。会場では絵画、写真、押し花絵、書道作品、菊なども展示されていて、賑わっていました。

大島区は「音楽のまち」と言われているだけに少ない人口の割にはたいへん活発です。子どもから高齢者までみんなが音楽を楽しんでいると感じました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	10月31日(水)	11月7日(水)
上越南消防署	0.036	0.040
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.057	0.063
頸北消防署	0.046	0.057
頸南消防署	0.040	0.047
東頸消防署	0.047	0.040
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.040	0.046

混声合唱団「コール大島」のメンバーを見ていたら、いつも静かに仕事をしているTさんの姿がありました。高齢者合唱団「りんどう・ほたる合唱団」の「森へ行きましょう」は本当に楽しそうな合唱になりました。「えっ、あの人が」と思う人も団員でした。

上越ご当地アイドルプロジェクト「J〇志校」のメンバーも参加していました。この日は、高田の酒祭りとは分かれて参加、大島の方は高校生以下のメンバーとか。今年は上越市内のイベントで大活躍です。

展示で目を引いたのはヤマセミの会の岩野道郎さんの収集したセミや蝶の標本、10年間の間によく集めたものです。

絵画の中には夫婦で出品しているケースも。写真は丸田貴美子さんの「妙高」です。素敵な絵でした。



一月の二週目の土曜日に源中学校時代の同級会を開くということで、地元の同級生とともにその準備をしています。私の役目は、当日、会場で配布するパンフレット作りです。いつもの癖で作業が遅く開催日間際になってバタバタしてしまいました。というのも、困ったことに、みんなで歌おうと思っていた校歌が見つからなかったのです。小学校の校歌はすぐに見つかったのですが、中学校の方はどこへしまいいんだのか出てきませんでした。

そこで学校のすぐそばに住んでいる先輩のYさんに電話してみました。「あると思うよ」との返事でしたので、すぐにYさんのところへと車を走らせました。

最初、なかなか見つからなかったようですが、源中学校の閉校記念誌が出てきました。冊子を開いた途端、うれしくなりました。校歌はもちろんのこと、学校の校舎、体育館、忠霊塔などの写真も掲載されていたからです。これで、同級生と一緒に校歌を歌うことができます。校舎などの写真を見た同級生たちは学校での授業のこと、部活のこと、新潟地震のことなどいろいろな思い出を語ってくれるはず。記念誌のなかで読んでおきたいと思ったページをYさんからコピーしてもらいました。

家に戻って、コピーしてもらった写真などをゆっくり見ているうちに、いろんなことを発見しました。例えば、校歌は一番から三番まであるのですが、額に入れた校歌と音符付きの校歌では、二番と三番の順序が違っているのです。これは同級会でどちらが正しいのか確かめたいと思います。また、忠霊塔の写真にはお世話になった中村三代志先生のほかに、わが家と同じ立場に住んでおられた長谷川正則先生の姿も写っていました。長谷川先生がなぜここにおられたのかも調べたくありません。

私が源中学校に入学したのは昭和三十七年四月です。校長は中学二年までが熊倉平三郎先生、中学校三年の時は山田良雄先生でした。このうち、熊倉先生は私が小学校の時からずっと校長でした。小中学校とも同じ校長というのはめずらしいと思います。

記念誌にはこの二人の先生も寄稿されていました。私はこの二人については中学生時代から対照的なイメージで記憶していました。熊倉先生は「近寄りたく、硬い先生」、山田先生は「良家のお父さん」といった感じ。寄稿された文を読んで私のイメージに狂いはないものの、二人の先生のお仕事ぶりについてはほとんど知らないできたということが分かりました。

「社会教育を案じつつ源中学校2ヶ年の教育を担って」と題した熊倉先生の文には、生徒を「お預かりした大切な国の宝」ととらえ、社会に出ても「絶えず自己の足下を見つめて反省し、思いやりを持って四囲(しい)の社会人に接する」ことができるよう努力したという文言がありました。また、山田先生の「さりゆく記録」という文には、五〇〇メートルも離れた崖から湧出した清水を学校までひいたこと、体育館のステージを組み立て式に改造し、体育館を広く使えるようにしたことなどが書かれています。おふたりとも生徒に限りない愛情を注がれていたことを改めて知り、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

さて、完成した同級会のパンフレットは八ページにもなりました。掲載された記録を読むと、テニスに夢中になったこと、先生方が熱心に補習授業の取組をされたことなどを思い出します。参加する同級生みなさんも私以上にいろんなことを思い出し、語ってくれることでしょう。記録がどんな力を発揮してくれるか、楽しみです。

## 様々な工夫もあって楽しい芸能発表会に

吉川区芸能発表会は3日、多目的集会場で行われました。今回の発表会では踊りやコーラス、詩吟など9つのグループが日頃の練習の成果を発表しましたが、様々な工夫があっ

て楽しい会になりました。このうち、「雪椿おはなしの会」のみなさんは、「モチモチの木」と私の『幸せめつけた』の中から「ワラ布団」を見事に群読。会場のお客さんたちはシーンとして聴き入っていました。ものすごく聴衆を引きつける朗読でした。

真ん中の写真は吉川体育館に展示されていた貼り絵作品。右下には母と同級生のTさんの名前が書いてありまし

た。素敵な作品でした。



4日は東京吉川会でした。懐かしい人に会うことができました。左から山越文英さん(山直海)、私、杉田勝雄さん(尾神)、杉田一さん

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	10月31日(水)	11月7日(水)
上越南消防署	0.036	0.040
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.057	0.063
頸北消防署	0.046	0.057
頸南消防署	0.040	0.047
東頸消防署	0.047	0.040
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.040	0.046